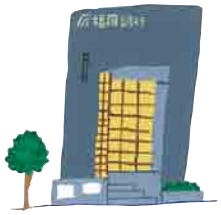


Top

《トップに聞く！》

Interview

「済生」の心で21世紀の保健・医療・福祉を支える

社会福祉法人恩賜財団済生会支部　福岡県済生会

済生会飯塚嘉穂病院

福岡医療福祉センター センター長　岡留 健一郎氏

済生会飯塚嘉穂病院 院長　西村 純二氏

■取引店／福岡銀行 県庁内支店

明治天皇の下賜（かし）により創立された日本最大の保健・医療・福祉の総合グループ

明治44年2月11日、明治天皇は生活困窮者の増大を憂慮し、「医療を受けられないで困っている人たちに施薬救療し、済生の道を弘めるように」というご趣旨の「済生勅語（さいせいちょくご）」を発せられ、あわせて御手元金を下賜されました。これを基にして、当時の内閣総理大臣桂太郎によって同年5月30日に創立されたのが、恩賜財団済生会です。

創立以来、社会経済情勢の変化に伴い、幾多の曲折を経ながらも、本会は創立の精神である「済生」の心を受け継ぎ、保健・医療・福祉の充実・発展を目指し、数多くの事業を行って参りました。

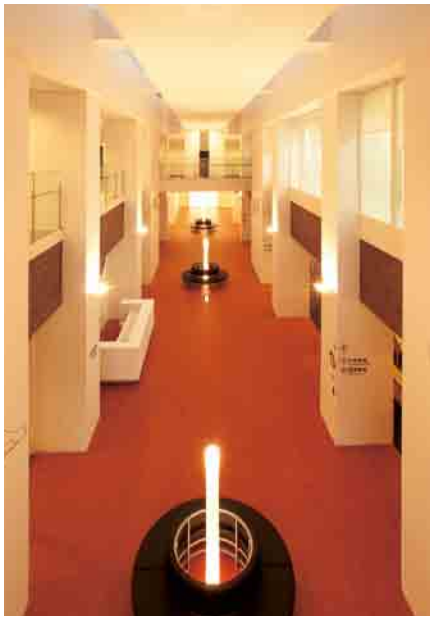
現在では全国40都道府県に支部を置き、社会福祉法人として、また公的医療機関として、その機能を充実させ、さらに発展させるべく、病院、介護老人保健施設、老人・児童福祉施設、訪問看護ステーション等、370余の施設で約4万9,000人の職員が保健・医療・福祉活動に取り組んでいます（平成22年4月1日現在）。そして、平成21年度には、年間延べで入院・外来の患者数が1,763万人、入所・通所等の施設利用者は567万人に達しており、本会の使命として取り組んでいる医療費の支払いが困難な方への医療費減免（無料低額診療事業）も180万人の方にご利用頂いております。

創立100周年を迎え、今一度原点に立ち返る

本会は今年5月30日に創立100周年を迎えました。これまでの100年、本会は最新の医療機器や高度な技術、そして手厚い看護・介護という「最新かつ細心」の技術で、生活困窮者はもちろん、全ての人を等しく保健・医療・福祉で支えて参りました。

創立時と比べると日本は豊かになりましたが、昨今の社会経済情勢の中で、無料低額診療事業の対象者や医療・福祉サービスにアクセス出来ない人々は、減少するどころかむしろ増加しつつあります。そこで、本会では創立100周年にあたり、今一度創立時の原点に立ち戻ろうという趣旨の下、会を挙げての生活困窮者支援事業「なでしこプラン2010」を立ち上げました。

▲故名誉総裁高松宮宣仁親王妃喜久子殿下の御書を前に左から岡留センター長、松永支店長、谷頭取、西村院長



▲ホスピタルモール

▲済生会飯塚嘉穂病院

具体的にはこれまでの無料低額診療に加え、ホームレスを対象とした巡回診療や更正保護施設での健診事業、母子家庭への健診事業等、更に広く生活困窮者を支援する事業に全国の各施設が積極的に取り組んでいます。

各地域の基幹病院として地域医療を支える福岡県済生会

済生会の福岡支部である福岡県済生会の下には、現在福岡総合、飯塚嘉穂、八幡総合、大牟田、二日市の5病院があり、それぞれが各地域の基幹病院として地域医療を支えております。

その内、飯塚嘉穂病院は2007年(平成19年)4月に、県立病院改革の一貫で民間移譲されることになった県立嘉穂病院の経営を、「地域医療への貢献」という使命から受け継ぎ、済生会福岡第二病院として開院いたしました。開院以来、福岡第二病院では地域の皆様に安全で質の高い医療サービスを提供するだけでなく、医師による医療相談、管理栄養士による栄養相談等を無料で行う健康教室を定期的に開催する等、安心・健やかに過ごせる地域づくりを支援して参りました。

▲病室から望む風景

▲特床室

▲緩和ケア病床付属の庭にて

そして、今年6月には同敷地内に新病院を新築開院し、病院名も地元に親しみやすいように現在の「済生会飯塚嘉穂病院」へと改称致しました。

地域の医療ニーズに応えられる医療体制の充実を目指して

飯塚嘉穂病院の新築開院にあたっては、「飯塚の自然豊かな環境において地域の皆様に『癒し』と『健康』を提供出来る病院を造りたい」という基本方針の下、患者様に快適な療養環境を提供するとともに、医療スタッフ、医療機器の充実を行うことで、地域の医療ニーズに応えられる、より質の高い医療に取り組むことを目指しています。

具体的には、新病院の延べ床面積を旧病院の1・5倍となる1万5千㎡へと拡大させ、個室をこれまでの4室から59室に増やした他、緩和ケア病床の開設や手術室の整備、MRIやマンモグラフィー等の医療機器の整備を行っています。

設備の拡充に合わせて診療科や診療体制の充実にも取り組んでいます。地域の皆様にとってより良い医療を受けて頂くため、診療科については今後も増やしていく予定です。また、診療科の充実に加え、今後は救急体制の整備や生活習慣病の診療、がん医療、呼吸器疾患等の専門医療への対応等、診療体制の更なる充実も目指しています。

済生会飯塚嘉穂病院 西村院長より

本年4月に済生会飯塚嘉穂病院の院長に就任しました。幸い素晴らしい医療環境を提供出来る新病院での病院運営が出来ることを大変楽しみにしております。医療機器の整備、オーダリング等の新しいシステムの導入も合わせて行います。器は新しくはなりましたが、診療科の充実、医療スタッフの確保、救急体制の整備等安全、安心な医療の提供に合わせて、経営の安定化が重要な課題です。より一層地域の医療福祉施設と密接に連携し、当院の得意分野である糖尿病、リウマチ、呼吸器診療に加え、消化器がん、肺がん、地域でニーズの高い緩和ケア、外来化学療法等のがん診療にも特色を出していければと考えています。

患者様に信頼される安全な医療を実施する為には、今まで以上に多くの時間とエネルギーが必要です。医師だけでなく多くの医療スタッフとのチーム医療が一層大切になってきます。その為の院内の医療体制つくりも重要な課題だと考えています。

20万の人口を抱える筑豊地区の中核病院としての機能と役割を明確にし、地域の皆様のニーズに合わせた特徴を出して期待に添えればと思っています。

社会福祉法人 恵済生会支部　福岡県済生会

済生会飯塚嘉穂病院　済生会飯塚嘉穂病院　検索

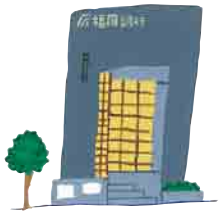
■創　　立：1911年5月
■所 在 地：福岡県飯塚市
■従 業 員：191名
■事業内容：病院
■病 床 数：199床

◎インタビューを終えて

医療環境やアメニティが整った新病院を大変興味深く拝見させていただきました。そして、新病院開院にあたっての地域医療に対するお考えや緩和ケア病床の導入を始めとした病院機能のコンセプトをお伺いし、創設時の「済生」の心が100年間脈々と受け継がれながら、常に地域の医療・福祉のニーズに応え続けてこられていることに大きな感銘を覚えました。

筑豊地区の中核病院である新病院が、今後も地域の医療・福祉を支える存在としてご活躍を続けられることを期待致しております。

福岡銀行
取締役頭取 谷　正明



Top

《トップに聞く！》

Interview

創業以来の「信頼」を根本理念に 鉄づくりを支える多彩な技術で 次の100年を生きる企業へ

株式会社アステック入江
代表取締役社長

高橋 正幸氏

■取引店／福岡銀行 八幡支店

鉄づくりを基盤に明日のテクノロジーを創造する

当社は、1910年（明治43年）に「入江組」として創業しました。創業当初は、官営八幡製鐵所（現在の新日本製鐵株式会社）の鉄鉱石の荷役・運搬や埋め立て用塵埃の運搬に従事していましたが、その後に製鋼業務を受託し、戦前・戦後を通して製鉄業の製鋼部門を担いながら発展を続けてきました。この製鋼部門は、現在でも当社の中核事業として位置づけています。

その後、「鉄冷え」と呼ばれた昭和50年代の鉄鋼不況を機に、当社も事業の多角化に乗り出し、製鋼業務で培った技術やノウハウ等を活かして、現在の主力事業の一つである環境・リサイクル事業やセラミックス加工事業等へと事業領域を拡大。現在は、創業以来の基幹事業（本業）である「製鉄事業」と、多角化によって発展させてきた「鉄関連事業」の2本柱で事業を展開しています。

また当社は、多角化した事業の進展にあわせて92年（平成4年）に社名を変更し、現在の「株式会社アステック入江（Astec irie）」としました。このアステックは「明日のテクノロジー」からとったもので、当社が新しい時代の技術企業へ変身する決意を表しています。

1世紀にわたり鉄づくりを支え続ける製鉄事業

経営の柱である製鉄事業では、当社は新日本製鐵株式会社の協力会社として主に八幡製鐵所と大分製鐵所で、製鉄の上工程にあたる「製鋼」部門を担当しています。この製鋼部門では、約1,500℃の溶けた溶銑から不純

▲視察風景

物を除去する溶銑予備処理、強靭な鋼を作り上げる製鋼工程で生成される副産物のスラグ処理、溶融鉄を取り扱う容器の耐火物施工等を行っています。

昭和40年代に入ってからは、自社が担う工程に対して適切な設備投資を行うことが出来る資金力、操業を安定的に継続出来るエンジニアリング力、更に独自の技術力の向上やお客様への提案力等、時代を追うごとに協力会社に求められる内容が変わる中、当社はこれらの要請に応えて参りました。当社が長年にわたって蓄積した高温溶融物の取り扱いに関する技術・ノウハウを有することで、一連の工程では技術開発段階から参画することが出来、お客様から高い信頼を頂いています。

製鉄事業で培った技術・ノウハウを活かして推進する鉄関連事業

一方、鉄関連事業では、本業である鉄づくりのプロセスから生まれた発想と技術を応用した事業展開を行っております。環境・リサイクル事業、都市環境・メンテナンス関連事業、ファインセラミックス精

▲メンテナンス中の溶銑・溶鋼鍋

▲耐火レンガ加工を施された鍋

▲高温のスラグ

密加工事業の3事業は、いずれも製鉄事業で培った技術・ノウハウを活かした事業であります。

特に、環境・リサイクル事業の中核をなしているＦＭ（ファインメタル）事業は、製鋼工程で発生する鉄粉を還元剤として使用し、半導体の生産工程（エッチング等）で排出される廃液から有価金属を回収すると同時に、エッチング液の再生を行うものです。当社は94年（平成６年）にこの事業を開始しましたが、資源の有効利用と環境保全に大きく貢献する完全リサイクルシステムとして多方面から高い注目を集め、事業として大きな成功を収めることが出来ました。

この新技術を足がかりに、２００６年（平成18年）には中国・上海へ進出。現地法人の「上海入江環境科技有限公司（上海入江）」を設立しました。その後事業も進展し、09年（平成21年）８月には上海入江が行う「エッチング液リサイクル事業」が経済産業省から「資源循環型事業」のモデルプロジェクトとして採択された他、同年11月に開催された第４回日中省エネルギー・環境総合フォーラムでは日中両国の合同プロジェクトの一つとして認定されました。このように当社の環境リサイクル事業は、日本はもとより中国でも高い評価を得ています。

企業の発展を支えるのは社員の力

当社は、長い歴史の中で培ってきた技術・ノウハウはもちろんですが、各部署や現場で働く社員を大事な財産と考えています。それは当社が掲げる経営理念にも明記されています。

経営理念に掲げる三つの項目で、一つ目に『会社の発展と社員の人生（いきがい）が調和する会社をめざします』、二つ目に『一人ひとりの社員がもつ限りない可能性を社会に提供できる会社をめざします』と定めて、社員が当社で働くことに生きがいを感じつつ、社員各人がレベルアップできるような取り組みに日々注力しています。

実際、当社の新技術・製品は、ほとんどが現場からの提案や改善要求、つまり社員の力によって生まれたものであり、社員がレベルアップすることが、会社の発展にも繋がると信じる所以です。

また、変革のスピードが著しい現代ですが、どのような企業環境の

株式会社アステック入江

アステック入江　検索

■創　　業：1910年2月
■設　　立：1957年2月
■所 在 地：北九州市八幡東区
■資 本 金：1億円
■従 業 員：800名
■事業内容：製鉄事業（製鋼、鋼管、製鉄エンジニアリング事業　他）、鉄関連事業（FM（ファインメタル）事業、住宅用鋼管杭加工、ファインセラミックス精密加工事業、ソーラーシリコン事業、PCB事業　他）
■事業拠点：北九州市八幡東区（本社）、北九州市戸畑区（八幡支店、FM事業部八幡工場、ソーラーシリコン事業所）、大分県大分市（大分支店）、山口県光市（光支店）、兵庫県姫路市（FM事業部広畑工場）、大阪府堺市（セラミックス事業所）
■U　R　L：http://www.astec-irie.co.jp

▲溶銑予備処理工程の制御室

変化にあっても社員が安心して働ける会社であり続けることを目指しています。

「信頼」と「感謝」で次の100年も事業の継続を目指す

これから、経営が重点としていることは、事業のグローバル化であります。経営の柱である製鉄事業で現場力と技術力を高める中で形成されるシーズを、鉄関連にも展開すると同時に、これをグローバルに展開出来る企業を目指したいと考えています。また、事業を拡大していく為には、同じ鉄づくりで高い技術を持った企業と協業して「オールジャパン」のような体制を構築し、共同で取り組んでいきたいとも思っています。現在、当社が参画しているＰＣＢ事業は、こうした高い技術を有する鉄関連の企業がそれぞれの得意分野で連携し事業を行っている好事例と思っています。

当社は、創業以来「信頼」を社是としてきました。創業から１００年以上もの間、事業を続けてこられたのも「信頼」を大事にしてきたからに他なりません。そしてまた、「感謝」を忘れずに業務に専心してきたからでもあります。今後も、「心からの感謝の気持ちに溢れた信頼」を根本理念に据えて、次の１００年も継続出来る企業でありたいと思っています。

▲前列左から山下八幡支店長、高橋社長、谷頭取、四元支店長、石井経理部長

◎インタビューを終えて

製鐵所で鉄づくりの現場を視察させていただき、御社が鉄づくりのプロセスの中でも重要な部分を担っておられることを実感致しました。また、鉄づくりで培った技術・ノウハウを活用して手掛けておられる環境・リサイクル事業においても、高い評価を得ておられます。これも創業以来「信頼」を何よりも大切な理念として、事業を展開されてこられた賜物ではないでしょうか。

鉄鋼や環境分野等、現在そして将来的にも必要不可欠な産業でご活躍を続けておられる御社ならば、今後も発展し続けていかれることを確信しております。

福岡銀行
取締役頭取　谷　正明

Top

《トップに聞く！》

Interview

日本と世界の農業分野に肥料事業を通して貢献する

ジェイカムアグリ株式会社
代表取締役社長
佐藤 健氏

■取引店／熊本ファミリー銀行 水俣支店

三社の合弁で発足した化学肥料メーカー 化学肥料のパイオニアとしての歩み

私共ジェイカムアグリ株式会社は、2009年（平成21年）に、JNC株式会社グループ、三菱化学グループ、旭化成ケミカルズ株式会社という3社グループが出資して誕生した、国内シェアトップクラスの化学肥料メーカーです。1908年（明治41年）我が国で初めて石灰窒素肥料を開発し、世に送り出した日本窒素肥料株式会社を母体としており、チッソ旭肥料株式会社および三菱化学アグリ株式会社が当社の前身となります。これまで、我が国初となる硫燐安（りゅうりんあん）系高度化成肥料、高付加価値コーティング肥料を開発、生産する等、常に化学肥料のパイオニアとして歩んで参りました。

現在は、国内に6つの製造工場と2つの研究所を持ち、支店8ヵ所、営業所4ヵ所を配して全国ネットワークを構築しております。特に九州域内では、高付加価値コーティング肥料等を生産し当社における重要な基幹工場である水俣工場をはじめ、黒崎工場と戸畑工場でも生産を行い、全国の農家の方々に幅広く供給させて頂いております。

農業生産を取り巻く環境の変化 肥料メーカーとしての使命

今日、農産物への需要と農業生産を取り巻く環境は大きく変化しています。例えば、需要面では、世界人口の増加、新興国における経済成長と食生活の変化、地球温暖化対策を背景としたバイオ燃料向け穀物の増産等、今後、世界的に農産物への需要増大が予想されています。一方、農産物の供給面では、特に国内における農業従事者の高齢化等の問題もあり、農業生産の省力化、効率化は、農業における主要課題の一つとなっています。

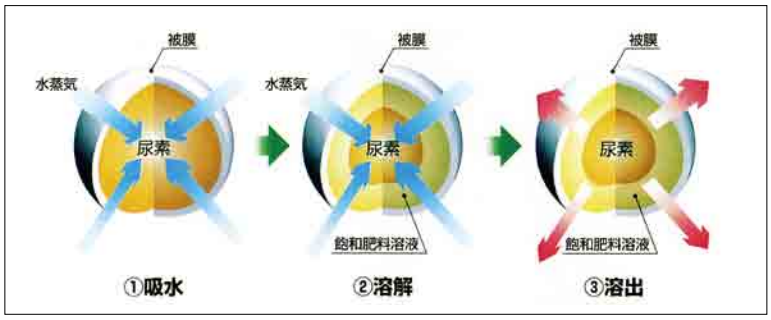
そのような中、肥料事業を通して、農業生産を支える当社のような肥料メーカーの役割は今後ますます大きくなるでしょう。日本と世界の農業へ貢献し続ける為、兼業農家から大規模農家まで幅広く農家の方々のニーズにスピーディーに対応出来る開発力、技術力、販売力の拡充を継続していくことが重要になります。当社としては、商品の安定供給の継続は、業

界シェアトップクラスの肥料メーカーとしての責務であり、使命であると考えております。その為にも、企業として収益力を高める等、事業継続基盤を盤石にしていきたいと思います。

▲左より、松永支店長、林頭取、佐藤社長

自然環境への負荷を少なく農作業の軽減も目指してハイテクノロジーの肥料を追求

植物の生育に欠かせない肥料の三要素は、窒素、リン、カリウムです。化学肥料の中でも化成肥料は、これら複数の有効成分を高い比率でバランスよく含み、施肥（せひ）・保管等で扱い易いことから、国内外の農業の現場では大変よく使用されている肥料です。



▲コーティング肥料　溶出の仕組み

この様な中、作物の効率的な育成だけではなく、人間を取り巻く生態系との調和にも配慮した商品の開発、製造に取り組むことも重要であると考えております。当社では、微生物分解型緩効性肥料という主に微生物によって分解（無機化）される土壌環境にやさしい緩効性肥料や、作物の生育にマッチした養分の供給を可能とするコーティング肥料等を手掛けており、当社商品には、自然環境への負荷を抑え、施肥の省力化を図る為の様々な特殊技術が施されております。

特に、当社オンリーワン技術の特殊機能商品（コーティング肥料）である「苗箱まかせ」（水稲育苗箱全量施肥専用肥料）は、水稲の生育に合わせて肥料成分が徐々に溶出するので肥料利用率が高く（減肥が可能）、更に、通常収穫までに複数回行っている施肥が1回で済む（追肥労力が不要）というメリットがあり、画期的な理想の肥料と言

▲当社グループ　ショールーム視察の様子

▲苗箱まかせ

苗箱まかせ
使用イメージ▶

▲LPコート

▲ハイパーCDU

▲商品サンプルを手に取る林頭取、右は横江常務

▲商品サンプル

えます。このように、当社は、環境負荷の軽減と農業の省力化・生産性向上を両立させる肥料の開発、提供に尽力して参りました。

総合力で日本一の肥料会社を目指して
海外にも販路を広め
アジアの農業を支える展望を

今後の経営戦略としては、まず国内ではこうした高付加価値の各種肥料の開発・製造・販売・普及をさらに進め、日本の新しい農業経営を力強くサポートしていくことです。3社が経営統合したことで全国を網羅することが出来た販売ネットワークをフルに活用し、肥料メーカー他社にも当社の肥料原料を供給することで、当社の誇る高付加価値コーティング肥料を今以上に普及させていきたいと考えます。

海外戦略としては、現在北米とヨーロッパを中心に商品を輸出していますが、日本と同じジャポニカ米が栽培されている韓国や東南アジアは非常に有望な市場といえましょう。日本がこれまで培ってきた、優秀な肥料製造技術や高度な稲作技術は、今後農業の近代化を目指していくアジア諸国にも必ずや貢献出来るはずです。当社もその一端を担う責務は大きいと考えます。

また、現在は一部東南アジア諸国から肥料原料を輸入していますが、将来的には原料輸入国も含めた海外現地生産も視野に入れ、海外への販売・当社製品の普及にも力を入れていきたいと思っております。

これからも、環境と人にやさしい高付加価値肥料の開発、生産、普及に取り組み、肥料事業を通して国内外の農業分野へ貢献していくとともに、「融和と新しい力と夢の創造」を経営のテーマとし、総合力で名実ともに〝日本一の肥料会社〟となることを目指して参ります。

ジェイカムアグリ株式会社

ジェイカムアグリ 検索

■創　　業：1906年1月
■設　　立：2009年10月
■所 在 地：本社／東京都千代田区
　　水俣工場／熊本県水俣市
■資 本 金：18億円
■従 業 員：321名（2011年3月末）
■事業内容：化成肥料等の製造・販売
■事業拠点：東京都千代田区（本社）、
　　全国各地（12支店・営業所、6工場、2研究所）

▲製造プラントの前にて（左より、松永支店長、林頭取、佐藤社長、佐藤工場長）

◎インタビューを終えて

作物の生育に合わせて肥料成分の溶出を調節するコーティング肥料や、微生物の働きにより分解される緩効性肥料等、御社が手掛けられている商品の特色には大変興味深いものがありました。このように農作物だけではなく人や環境にもやさしい肥料を提供出来るのも、御社の高い技術力によるものであると拝察致します。

御社が、今後も付加価値の高い化学肥料の提供を通じ、日本、そして世界の農業生産に貢献されることで、益々ご発展されることを祈念致します。

熊本ファミリー銀行
取締役頭取 **林　謙治**

Top

《トップに聞く！》

Interview

「工場の心臓」ポンプに想いを込め、オーダーメイドのソリューションを提供

本多機工株式会社
代表取締役社長
龍造寺 健介氏

■取引店／親和銀行 福岡営業部

メイドイン九州のポンプで世界へ

日本のみならず世界のモノづくりを支える工場、工場があれば必ず水（液体）があり、それら液体を移送する役割を持つ「ポンプ」は欠かせない存在として「工場の心臓」と呼ばれています。

当社は、1949年（昭和24年）に、長崎出身の本多初義が本多機工商会として福岡市中央区で創業して以来、一貫してポンプ製造を行っております。51年（昭和26年）には本多機工株式会社に改組。戦後の復興や高度経済成長を背景に日本中で工場建設やインフラ整備が進む中、ポンプの需要も増え、当社も事業を拡大して参りました。

その後67年（昭和42年）には、ステンレス製ポンプの製造を開始。それまでは、鉄製のポンプが一般的でしたが、耐久性、耐蝕性に優れるステンレスを用いたポンプの製造を他社に先駆けて取り組んだことで、販路拡大や受注増加に繋がりました。

更に70年（昭和45年）には、タイヤの原料となるラテックス等、高粘度の液体用に「ラテックスポンプ」を開発しました。ラテックスは空気に触れると固まる性質を持つためポンプの中で詰まりやすいのですが、当社の独自技術がこの課題を解決したのです。生産工程で使用される液体が複雑かつ多様化するにつれて、お客様の用途に応じたオーダーメイドのポンプを製造出来る体制を構築して参りました。現在では、国内市場の多くで

当社のラテックスポンプを利用頂いており、世界シェアも40％を超えています。

74年（昭和49年）福岡市内に分散していた工場を福岡県嘉穂郡稲築町（現：福岡県嘉麻市山野）に集約、77年（昭和52年）には同地に本社機能も移転しました。

ますます増える海外からの需要、社内のグローバル化で対応

年々、海外からの受注が増えており、中でも成長著しい中国やインド、タイ等から、水処理関連の需要が高まっています。半導体工場では生産過程で洗浄用に不純物が一切含まれていない純水（ピュアウォーター）が不可欠であり、高品質のポンプが必要とされます。当社はこれまで国内の半導体工場等に数千台のポンプを納入した実績があり、海外からも高く評価されています。

昨年は、米国の経済誌「FORTUNE」に当社が掲載されたこともあって、世界各国から直接引き合いを受けることが増えました。また、日本の多くのメーカーがアジア生産を拡大することも予想される為、海外における受注増にも対応出来る様、2012年（平成24年）を目処にアジアに初の海外工場を建設する予定です。

海外のポンプエンジニアリングメーカーとの提携も進めています。提携先のメーカーは当社と同様にオリジナル性の高い製品を製造しており、各々の製品が高耐久性や汎用性等の特徴があることから、互いに販売・保守を行える体制も整え、非常に高い相乗効果を生んでいます。当社は世界50カ国以上で販売実績があり、売上に占める輸出の割合は既に5割を超えています。

こうした海外進出に対応する為、6年前から社内のグローバル化を進めてきました。主に福岡県内の大学で学んだ中国やドイツ、チュニジア等の高度外国人留学生を積極的に採用し、現在10名が海外市場の開拓等を行っており、その内3名は博士号も取得しています。現地の商慣習にも通じ、海外での取

引で活躍する彼らは他の社員にも良い刺激になっています。

環境部門にも積極的な取り組み

当社は、環境問題への取り組みも積極的に進めています。化学プラント等からの有害な排煙をクリーンガスに変えることが可能な排煙脱硫装置用の循環ポンプは、欧州の発電所でも採用されています。

環境分野の中で当社が最も注力しているのが、ウォーターリサイクルにも有効な世界初となる大容量のマイクロナノバブル（超微細気泡）発生装置で、特許も取得しております。非常に小さな泡を発生させ水中に放出することで水中の不純物を吸着し水面まで浮上させて、その上澄みを掬うだけで水を浄化させることが出来ます。また空気の代わりにオゾンを加えた気泡を放出することで、液体の殺菌、脱色、脱臭も効率的に行えるようになりました。

この技術は、10年（平成22年）に横浜で開催されたＡＰＥＣの環境ゾーンで「日本の優れた環境技術・製品」として展示され注目を集めています。

また、造船業界では、環境への配慮や燃料の削減を図ったエコシップへのニーズが増しています。当社の大容量のバブル発生技術は船舶の運航時にも応用出来、海面下の船体をバブルで覆い水との摩擦抵抗を減らすことで船舶の高速化、燃料費削減に繋がることから、造船メーカーからの引き合いもあります。

この様に大容量のバブル発生技術は汎用性があり、幅広い産業分野で活用出来る可能性を秘めています。

▲マイクロナノバブル発生装置

本多機工株式会社

本多機工　検索

■創　　業：1949年9月
■設　　立：1951年9月
■所 在 地：福岡県嘉麻市
■資 本 金：9,000万円
■従 業 員：152名
■事業内容：産業用特殊ポンプの設計・製造・販売
■事業拠点：福岡県嘉麻市（本社、工場）
東京都中央区、大阪市北区（支店）
福岡市博多区（国際事業本部）

▲工場視察風景

常に感謝の気持ちを忘れず、100年企業を目指す

3月11日の東日本大震災の被害は甚大で、今もなお全国的に深い爪痕を残しております。東北地方にも当社のお客様が多くいらっしゃり、被災されたお客様には最優先で対応したいと考え社内に対策本部を設立しました。これは、当社を育てて頂いたお客様と地域社会への恩返しをしたいとの想いからです。

また、今年当社は、設立60周年を迎えました。今こそ、当社経営理念である「われらは技術をもって価値を創造し、社会へ貢献する」を実現する時だと考えています。

今後も現場主義を徹底し、お客様のニーズを汲み取りオーダーメイドのソリューションを提供することにより「本多ブランド」を極め、更に100年企業となるべく、これからも努力して参ります。

▲左より、龍造寺社長、鬼木頭取、植本本部長、荒木福岡営業部長

◎インタビューを終えて

親和銀行
取締役頭取　**鬼木 和夫**

国内はもとより、海外の工場でも活躍している御社の製品は、その高度な技術力によって世界各国から注目されています。これは、御社が常にお客様のご要望を真摯に受け止め、オーダーメイドに徹し最良のソリューションをご提供されてこられた積み重ねであると考えます。また、環境分野への新たな取り組み等は、更に大きなビジネスの可能性を秘めています。今後もより一層「本多ブランド」を高められ、益々御社がご発展されることを心から期待しております。